

Save The Tropical Forests



森の通信

2013.10.8



▲ タンジュンハラピン村の新しい苗作りグループ「Pelita Sembilan」とエコツアーグループとの集合写真

CONTENTS

- people 29 Zen i (ゼンジ)さん …… 3p
- タンジュンハラピン国立公園 周辺での
プランテーション開発問題の現状 …… 4p
- ホルネオ・エコツアーに参加して
山本忠幸 …… 6p
- 菅我部愛 …… 7p
- ホルネオエコツアー旅日記 Vol.1.
溪田聡 …… 8p
- Save! アマゾン① 西岡良夫 …… 11p
- ホルネオ・7南麓と福島原発事故
春日直樹記 …… 12p
- 世界の森林ニュース …… 14p

この8月ブラジル国立宇宙研究所(INPE)のリンコロン研究員は、「アマゾンでは太古の昔から豪雨と干魃が繰り返されてきたが、温暖化でその間隔が著しく短くなっている。大西洋の表面水温の上昇が原因だ。違法伐採や牧場の焼畑も影響する」と説明する。ブラジル政府は、放牧地開墾や違法伐採の取り締まりと監視を進め、伐採面積は過去4年間減少し続けている。だが国連の気候変動に関する政府間パネル(IPCC)によると、アマゾンの熱帯雨林の面積は2100年に現在の3分の2になるとの試算もある。

読売新聞を見て驚いた。40年間の変人と言われていたチャールズ皇太子は、有機農園を造り、今や1億円以上を産み出し、NGO、慈善団体に寄付しているばかりか、彼が今最も力を注ぐは熱帯林の保護活動だと。世界の食料、気候変動と密接にリンクしているからだそう。今や[時代の先駆者]と言われ、ラテンアメリカ、アジア、アフリカにおいて活動している。皇室への重圧も度外視して、40年近くその活動することに敬意を表したい。何でそのように出来たのか。今、ウータンで、個人で何が出来るか。

グリーンピースは、1988年G8サミットでブレア首相に違法伐採停止を申し入れてから、世界で動き出す。ウータンも2000年から当時の谷津農水林業大臣に違法材流入停止を依頼した。私たちはラミン調査会と【やれば出来る！違法ラミン材停止キャンペーン】を打って出た。ものすごく行動すればある程度できると思ったが、企業がどんどんラミン材を転換したり停止して、日本で750社停止。実行を始めた2003年時点では想像できなかった。時期、アイデア、作戦、手法があい、TelapakやEIAというすばらしい海外NGOsと交流できたからでもある。状況把握と、行動、実践しての問題点を確認でき、問題を解消したからだ。

この違法伐採が完全停止して、NGOと一緒に植林活動を始めたタンジュン・ハラパンの村人の多くは、「将来の生活を優先」としてアブラヤシ開発に賛同した。しかし、一時の収益も泥炭湿地が大半のタンジュン・プティンでは、湿地を好まないアブラヤシ開発は生態系に反し、アブラヤシが大きくなる前に枯死したり、成長できない状態になるだろう。タンジュン・プティン公園のアブラヤシ開発は、これこそ自然の摂理に反するものだ。生態系破壊し造成する農園をブルグに広げれば、農園で乾燥したブルグの地のHotspotが10kmある所に飛火して、公園中心部分の生態系破壊が進む可能性がある。

オランウータン、ギボン、テングザル等生息地の減少や、泥炭湿地からのCO2排出だけの問題でない。国立公園のゾーン見直しに伴う理由なき公園面積の除外の問題だけでない。火災がブルグ等へ広がれば【生活優先】も一たまりもない。今年6月のスマトラ島の火災で、シンガポール、マレーシアが混乱したように火災は大問題だ。このアブラヤシ開発を許してはならない。今、私たちに何が、どれだけ出来るのか。(N)

【ウータン活動報告】

2013・6・1 気候ネットワークの集會に参加* 西岡

6・23 FoEJapanの現地視察・交流会に参加* 武田

6・24-26 FoEJapanの団体交流会に参加* 石崎、西岡

6・25 『通信ウータン109号』発送

7・27 当会がインドネシア大統領、林業大臣、農業大臣、国土庁長官、ノルウェー首相、CBD、ユネスコ中カリマンタン県知事、Bupati(管轄市長)等にタンジュン・プティン公園のアブラヤシ開発停止の嘆願書を10団体名で送付(JATAN、FoEJapan、JATAN名古屋、FoE金沢、ラミン調査会等)

8/3-29 同嘆願書を大統領、農業大臣、国土庁長官等へメール送付、県知事、Bupatiに送れず。

8・22 中村、再度タンジュン・プティン公園等へ/エコツアー説明会の実施。

8・24-30 石崎等がエコツアーでタンジュン・プティン公園等へ

People(29)save! the World's Forests

Walhi Zenzi (ゼンジ) さん

インドネシアの Friends of the Earth (FoE) である Walhi で森林および大規模プランテーション開発対策を担当している Zenzi さん。日本好きだったというお祖父さんの影響からか、メールアドレスは zenzi.fujiyama。Zenzi を漢字で書いてくれということで「禅寺」と書いたメモを添えた苗木とパシヤリ。7月に訪れた東京では、最終日に合気道センターを見学に行きたいと言ったそう。

以前にいたスマトラでは、法律や行政手続きに則って企業の悪質な開発にストップをかける『アドボカシー』という手法を使い、数多くの開発をやめさせた経験を持つ。

名前の通り、物腰が柔らかく、どこか達観した感のある Zenzi さん。今年の5月に日本からやってきた僕と武田さんの熱意を感じて協力を決めてくれた。「次に日本で会う頃には BGA の開発は終わっているだろうから祝杯をあげよう」と頼もしい言葉をくれた。(石崎)



タンジュンプティン国立公園周辺でのプランテーション開発問題の現状

石崎 雄一郎

◎Zenzi さんとの再会

6月23日～26日に行われた FoE Japan 主催の『東南アジアの熱帯林の未来に向けた提言ワークショップ』にウータンとして参加しました。そこで、5月のインドネシア行きの際にバスキさんと共に訪問した Walhi (インドネシアの FoE) の Zenzi さん (今号 People 参照) と再会し、改めてタンジュンプティンの問題について話し合いました。Zenzi さんもこの件は気になっていたらしく、当事者であるウータンの許可ができれば、すぐに着手しようと思っていたということでした。

武田さんが事前にウータン内部、および23日に行われた埼玉県飯能市の森林見学会で Zenzi さんと話しをしてくれたおかげで、話し合いはスムーズに進みました。ここで正式に Walhi がウータンに協力してくれることが決まりました。

◎JATAN の中司さんと Zenzi さんによるタンジュンプティン調査

7月に入り、JATAN の中司さんから連絡があり、アブラヤシプランテーションの調査対象としてタンジュンプティン国立公園周辺の事例を検討していると連絡がありました。東京で JATAN 等の NGO メンバーと話し合い、8月のウータンエコツアーに合わせて、中司さんが現地調査入りをする事になりました。その後、Zenzi さんも同行してくれることが決定。8月26日にパンカランプン空港で再会を果たしました。中司さん、Zenzi さん、そして FNPF のバスキさんはタンジュンプティンの現地で何度も調査と話し合いを重ねたようです。そして、中カリマンタン現地の Walhi オフィスを訪問し、協力を要請しました。

Walhi のアドボカシーは、プランテーション開発が法律や行政手続き上、問題がないかをチェックし、訴えかけていくもので、そのためには現地住民からの開発に反対する声が必要となります。バスキさんはタンジュンハラパン村出身の FNPF スタッフに対しても、この問題の当事者となり争っていく可能性があるが、その覚悟があるかを問うたとのことでした。将来をどう選択するかは、最後には開発されようとしているその土地の人々自身にかかっているのです。

◎共同 Complaint letter の作成は進まず・・・も RAN や SIES は独自に展開を

5月に延期になった共同 Complaint letter の作成と記者会見は、関係団体の動きが鈍く、進まない状況となっています。ようやく出来上がったドラフト案に対して、各団体からの十分な返答はなく、完成の日の目を未だ見ていません。

そのような中で、RAN はタンジュンブティンのケーススタディをブログで取り上げ、BGA と関係する企業と取引のある日本の銀行を訪問するなどの動きをみせています。また、インドネシアの絶滅危惧種を守る NGO の SIES は、独自に RSPO へのアプローチを行っています。進まない Complain letter ですが、エコツアー後も現地に残って調査を続けている中村さんからの報告では、Sawit Watch の Carlo さんは続ける意思のある団体だけでもやるなら協力はする、と言っているとのこと。

◎ウータンでは独自にペティションを作成、インドネシア政府機関等へ送付

Carlo さんから送られてきた Complaint letter のドラフト案では、対象が RSPO と BGA とされていました。もともとはインドネシア政府宛にペティションを送ろうとしていたウータンは、この考えに合意できず、独自にペティションを作ることとしました。

大西さんの多大なる協力もあり作成されたペティションでは、「タンジュンブティン国立公園の保護を一層強化する」「BGA への IUP（開発許可）を取り下げ、今後 HGU を与えない」「国立公園およびその周辺を HCVF（保護価値の高い森林）として扱う」「モラトリウムを重視する」こと等を要求しました。その理由として、「タンジュンブティン国立公園およびその周辺の自然の価値は計り知れない」「ウータンは FNPF と長年の協力により、緑の回廊を作るべく植林を進めてきた」「現存するプランテーションでは、オランウータンの殺害された死体が見つまっている」「BGA の環境アセスメントは不十分である」「開発予定地は深さ 3M 以上の泥炭地を含み、モラトリウムにも違反している」「BGA は他の地域でも深刻なトラブルを起こしている」「この開発は、生物多様性条約の精神にも反している」等の理由により、この開発を見直すよう請願をインドネシア大統領、林業大臣、林業省の関連機関、REDD+タスクフォース、Bupati、UNESCO、CBD、ノルウェー政府等へ送付しました。

◎新しい苗作りグループ Pelita Sembilan（表紙・写真）と今後の村での展開

8月のエコツアーでは、パダンセンビランで新しい苗作りグループとの苗作り・植林体験を行いました（『浅田さんの旅日記』を参照）。まだ出来て間もない、女性の多いこのグループは、その場で話し合われた会議により、名前を Pelita Sembilan（9つの明かりの意=かつてパダンセンビランは人が多く住み、メイン通りではほんのりと明かりが灯っていたとのこと）と決定しました。

村でのエコツアー最終日に合流した神奈川の丸山さんは、現在タンジュンハラパン村で、独自の可愛いオランウータンのキャラクター『MANIS』を使った環境教育ワークショップを行っており、時折 Facebook を通じて新鮮な情報を送ってくれています。村に新しい風が吹き、今後どのような展開になるか、期待できます。

感動！ボルネオ・エコツアー 豊かな森の再生をめざして 感想文

「ウータン・ボルネオエコツアーに参加して」

京都 山本 忠幸

総評 現地状況の把握が不十分なまま出発、想いの落差大。

1. 旅程

余裕があり、ちょうど良かったかな。

2. 自然の素晴らしさ

熱帯雨林の壮大さ、蛍見物は子供の頃と京都にきた1957年からの下宿時代以来だ、感動！

3. 残念だったなあ

ホームステイには自家発電（時間限定）で電気がきていない、トイレがない、水シャワーも十分できず。衛生上気になる箇所多し。

荷物不着（2日遅れ）で不便さをかこつ。

4. 良かったなあ。

バスキさんとのふれあい、ロッジ料理人（世話人）の献身的サービス、綾乃さんの存在は現地の人達とのコミュニケーションに大いに役立った。

学校の見学では子供たちの無邪気さ（校歌斉唱）、校長・教頭先生たちの教育に対する姿勢、駄菓子販売の子供同士のやりとり。授業開始時間のおおらかさ、雨が降ったら出勤停止のバク先生（女子）、授業開始までの遊び・おしゃべりで楽しそう。

服装で正規の子とそうでない子の区別（必要と思います）。授業を見たかったなあ。我々からすれば不便だと思える諸事がこちらの人たちは少しも苦にしていななし、伸び伸びと行動している。

5. 再度の挑戦は

十分にインドネシアの文化には触れることができたし、年齢的にも無理が利きにくくなってくるので再訪は難しいでしょうね。

ただタイ・カンボジアやベトナム、エジプトなどにくらべてボルネオは（ジャカルタを除き）文明度において少し劣るかなあ。

持参のボールペンがロッジの世話役と従事者たちに喜ばれたが綾乃さんには、サンガの特製タオルを進呈。

6. 最後に

終戦を知り戦後の耐乏生活を経験してきた私には、現在の我が家の生活を見直してみる機会が与えられたことに感謝します。



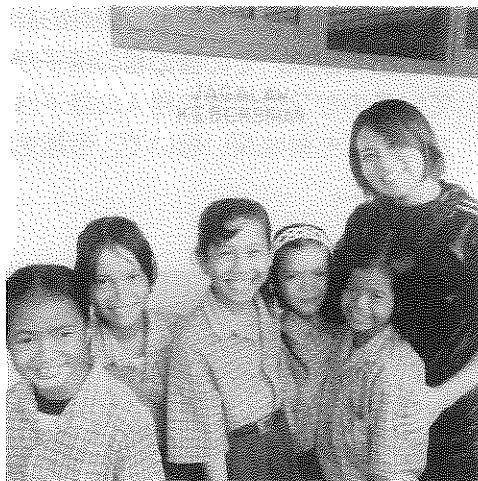
「ボルネオエコツアーに参加して」

曾我部 愛

私が今回ボルネオエコツアーに参加して一番感じたことは人と繋がることの楽しさです。ツアーの一番の目的は植林ですが、その植林を通して現地の方、同行して下さった方、たくさんの方と関わりました。そこでは新たな発見がたくさんあり、私のこれからの学生生活に刺激をくれました。すべての方に感謝しています。

私の勉強不足で、やはり現地では上手くコミュニケーションがとれないことも多々あり、ボルネオで実際起っている問題も現地で初めて知ることが多く、自分の未熟さや小ささを思い知りました。そういった部分では悔しい思いを何回もしたので、またいつかリベンジできたらと思います。

そして、直接現地に行ってみて、インドネシアでの動物の保護、森林伐採、現地の発展、貧困の差などを肌で感じ、考えさせられることがたくさんありました。今回感じたこと、経験したことは一生忘れないと思います。今回感じたことをまた日本でも活かしてもっと自分自身が成長したいと思います。



「今年もボルネオ・エコツアーに昨年に続いて参加しました」

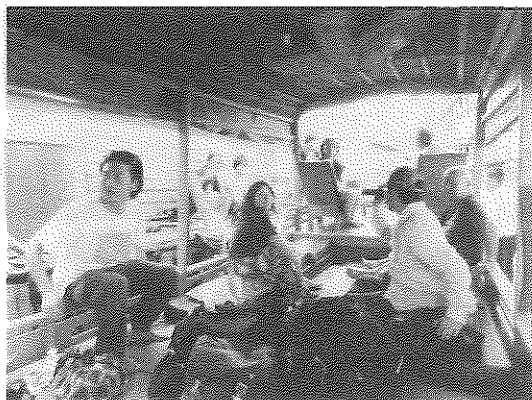
村田 嘉彦

今回のツアーでも「ボルネオの生物多様性を守る活動にふれる」をたくさん体験学習ができました。特に、4日間のタンジュンハラパン村ホームステイ先では、親父がオランウータンの木彫り作業やってみせてくれ、完成品を手土産に持ち帰りました(写真)。3日目のアクティビティではジュートの敷物づくりとセコニア川でのカヌー漕ぎを体験しました。また、村の小学校の授業参観、村民や家族が皆で助け合いながら楽しく生活する様に出会い、私の子供のころ(昭和20~30年代)を思い出して懐かしくなりました。

「かわいい子供には旅をさせ」の諺がありましたが、今回のインドネシアのツアーは、日本には年配者にも体験するのが難しくなっている、電気・ガス・水道のない島への旅行でした。しかし、豊かな自然環境にふれ、人・動物・植物とともに共生する村での貴重な生活体験ができて楽しく学ぶことが出来ました。



行ってきました、みなさん。第3回目です。去年のツアーから早いもので1年が経ちました。今回はハラパン村を取り巻く状況の変化を見ることを主な目的に、ツアーに参加をしました。プランテーション開発の計画が明るみに出て以来、その後の村の様子はどうなっているのか？はたまた村人の様子はどうなのか？とても興味深い思いで、今年も旅に出かけました。



まずは、いつものクロトでのリバークルーズです。村に入る初日は、いつも豪華に(?)遊覧船に乗って旅行気分を味わいながら村に向かいます。このクロトは、参加者にも好評で、「ボルネオに来た！」っていう実感を十分に味わえます。気分良く歌を唄うのもよし、昼寝をするのもよし、また写真を撮るのもよしで、1日中乗っていても飽きない心地よさはたまりません。

まず今回、とても驚いたことの一つは、村に入る前のセコニャール川の川岸でたくさんのテングザルを見かけたことでした。ちょうど夕暮れ時の午後5時頃だったこともあってか、国立公園の反対側の川岸に群れをなしたテングザルが夕食タイムを楽しんでいたのです。これまでこんな大群で見たことがなかっただけに、タンジュンブティンにはたくさんのテングザルがいるんだなあ〜と改めて感心をしてしまいました。



「まだまだたくさんの野生動物がいるこの近辺でプランテーションを作るなんて！」一人、心の中で叫びながら、テングザルとにらめっこを楽しんだ後、一年ぶりのハラパン村へ到着しました。

村に着いた翌日、早速、ジュルンブンという場所にプランテーションの見学に行きました。いつもの見学場所ですが、果てしなく続くプランテーションを見た参加者の方々は、みな唖然とした表情をされていました。現地 NGO (FNP F) のバスキの説明を真剣な表情で聞き入っているみなさんの姿はとても印象的で、日本に帰られたら、是非、いろいろな方にお伝えして欲しいなあと思いました。



次は、プランテーション横で FNP F が行っているアグロフォレストリーの見学です。現金収入になる香木や畑などが自然の木々の間に存在するシステムは、自然と人間の共生を目指す優れたエコシステムです。見学の途中、バスキが気を利かせて、参加者のみなさんのために、畑からスイカを採ってきてくれました。炎天下の中、疲れた体を冷やすには最高のご褒美(?) となりました。

今回のツアーでは、バスキの他に現地の NPO である WALHI (ワルヒ) のメンバーのゼンジさんと、日本の NGO の JATAN (ジャタン) のメンバーである中司 (ナカツカ) さんたちともジュルンブンで合流でき、現地の情報についていろいろな話を聞くことができました。彼等は水面下で進むプランテーションの開発計画を阻止すべく、日夜、現地の調査やディスカッションを行っていて、一行が去った後も、秘密の小屋で謎の作戦会議を行っていました。

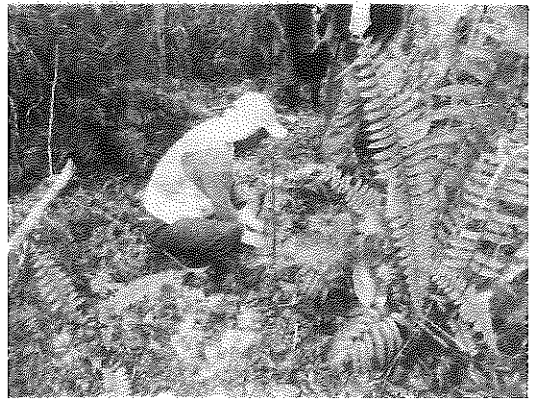


さて、次に向かったのはキャンプリーキーです。今回は早々といつものオランちゃんがお出迎えしてくれました。しかし、カメラを向けると恥ずかしそうに横を向いて、なかなか写真を撮らせてくれません。パチリ！一瞬のすきを狙ってシャッターを切りました。う〜ん、いい顔じゃない！

キャンプリーキーでは、いつもオランちゃんに癒してもらえるので、大変有り難いです。

日付が変わって、今日は地球を救うための植林の日です。いつも思うのですが、ポルネオの森の減少が遠く離れた日本で起きているいろんな異常気象の原因の一つであるように思えて仕方がないのですが、みなさんはどう思われますか？

今回は苗木作りを中心に作業を行いましたので、植林を行った本数はあまり多くはありませんでしたが、参加者のみなさんは皆、心を込めて一本、一本、木を植えていらっしゃいました。

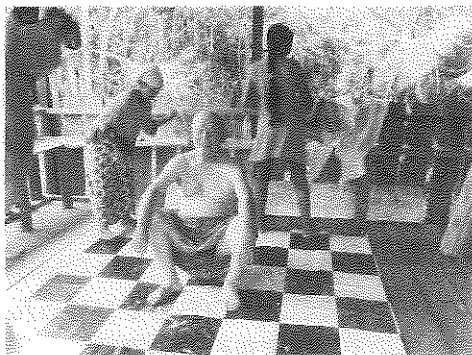


今回のツアーで二つ目に驚いたことは、ハラパン村に新たな苗木作り&植林グループが結成されていたことでした。以前、セコニヤール・レスタリというグループが活動を行っていたのですが、例のプランテーション開発計画により、自然崩壊をしてしまいましたので、現在はこの新たなグループが主体となって活動を行っています。

グループのほとんどは勇敢な(?)女性で、「私たちに任せておけば大丈夫よ!」と

言いながら、てきばきと苗木作りの作業をしていたのがとても印象的でした。これは頼もしい〜!彼女たちなら、いつかきっと豊かな森の再生ができるかも。そんな期待を持ちながら炎天下の中、作業をしていたのでした。

この後一行は村に戻って休憩を取った後、アクティビティの時間を楽しみました。伝統的スパやマッサージ、そしてカヌーなど参加者のみなさんは各自興味のあるアクティビティ



に参加して、心のリフレッシュをしていました。

ハラパン村に着いて以来、ハードなプログラムが続いていただけに、このアクティビティの時間は、初めてゆっくりと村でのひとときを楽しめるとても有意義な時間となりました。特に、伝統的スパを楽しんだ参加者の山本さんは、初体験の感動と何とも言えない爽快感の入り交じった表情で見学者に笑顔を誘っていました。(→ つづく!)

『Save!アマゾン』(1)～【地球の肺】から「CO2 排出源になる恐れ」 西岡良夫

BR364 号線から森林破壊 右)ロンドニア州で牧場へ転換する為の野焼き/1989 年撮影 by Nishioka

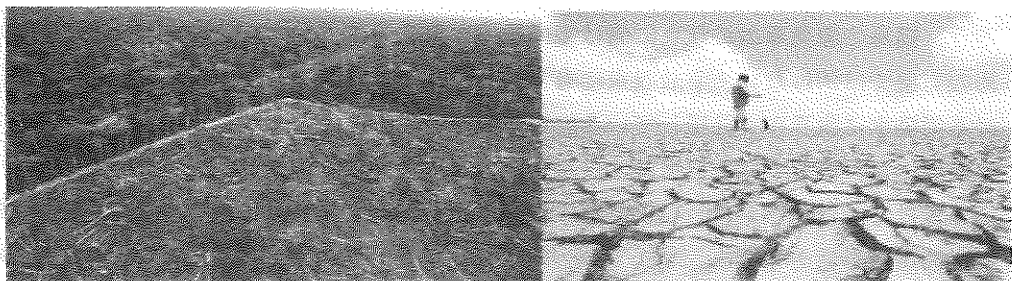


アマゾンの熱帯雨林は全世界の熱帯雨林の 30%を占め、二酸化炭素を取り込み、酸素を作り出す「地球の肺」の役割を果たしてきた。過去 20 年間、毎年四国と同じ面積の 1 万 7 千 km² が消失し続けている。

1960 年代より当時のブラジル軍事政権は、アマゾン開発に「土地無き民に土地を」のスローガンで、原生林を伐採して全長 5,500km に及ぶアマゾン横断道路を建設した。世界一の埋蔵量のカラジャス鉄鉱山の開発に、インディオを無理に移住させてツクルイダムを造り、電力を供給した。都市に住む貧しい人をアマゾンへの入植を積極的に勧め、入植者は農地を開くために野焼きし養分がなくなった土地を放棄した。一方牧場開発を助け、放棄した土地は牧場として開発された。熱帯林は道路沿いから次第に消失した。

2000-2005 年のアマゾンの破壊は、70%が牧場開発によるものだ。そして現在、特に大規模な大豆生産農園も大問題となっている。だが今回の Rio+20 サミットは、森林大破壊の牧場開発、大豆の巨大開発も議案「Farm」の中で論議する内容がない。「Farm」のグリーン化として、開発推進されたら大問題なのだ。

英国とブラジルの国際研究チームは「2011 年 2 月、昨年の南米アマゾン熱帯雨林地帯の干ばつが及ぼした環境被害は、森林破壊が最大の 2005 年以上に深刻で、米国の 1 年間の CO₂ の 50 億トン以上を放出」との調査論文を米科学誌サイエンスに発表。同論文では、「気候変動で 2005 年や 2010 年のように深刻な干ばつが今後頻発する。世界最大のアマゾン熱帯雨林は二酸化炭素(CO₂)を吸収するどころか逆に放出し、世界の温暖化を加速しかねない」と警告。世界の森林は成長につれて CO₂ を吸収し、地球を冷やす効果があるが、森林が枯れて腐ると逆に CO₂ を放出する。「CO₂ を例年 15 億トン吸収しているアマゾン熱帯林は枯れたり朽ち果てたりし、向こう何年かで 54 億トンの CO₂ を放出と予想される」と。また「2005 年に死に絶えた森林はアマゾン南西部だけに集中したのに対し、2010 年は 3 つの広い地域で森林が死に絶えた」と他の科学者が報告し、アマゾンの森林破壊を訴えている。Rio+20 含めて今からアマゾンで、どれだけ開発計画をやめ、牧場・大豆・ダム開発・違法伐採を阻止できるかにかかっている。 Save! Amazon!



オリンピック開催と福島原発事故

2020年夏のオリンピックとパラリンピック開催都市が東京に決まった。開催都市決定を祝う多くの人々。経済効果を期待する声。祝賀ムード一色だ。

安倍総理は、福島の汚染水問題に触れ、原発港湾内の0.3km²の範囲で完全にブロックされている。抜本的解決に向けて「政府が責任を持って」対応している。原発事故収束を公言した。その意味と責任は重い。海外メディアの多くは汚染水問題での総理の発言を疑問視している。原発事故で放射性物質の飛散が続いている。原子炉内に高濃度の放射性物質がある。事故原因の調査も出来ない。次々と問題が出る。増え続ける地下水である。1日300ト～400トだ。貯水槽が満杯になる勢いだ。貯水タンクの配管や「フランジ型」貯水タンクの継ぎ目から汚染水が漏れ出す事態だ。土壌汚染や地下水汚染が問題となる。原子炉建屋の地下に高濃度の汚染水があり海に流出している。汚染水処理装置(アルプス)で、トリチウムの除去が出来ない。シルトフェンスで港湾内を遮断し汚染水の流出を防いだ。8月6日の時点で貯水タンク容量の8割以上になった。まもなく汚染水の貯水タンクも限界(80~90万トン)だ。東電は汚染される前の地下水を汲み上げ海に流す計画だ。地下水位の変動が地盤の浮沈となる。東電は汚染水を安全に保管する手立てがない。急場しのぎの対応だ。7月に汚染水の海への流出が発覚した。6月に溶接型のタンクでも腐蝕で微量の汚染水が漏れた。

放射性物質で汚染された水が現在も流出し、地下水や海水を汚染し続けている。海の汚染・海の生態への影響は深刻だ。放射性物質を希釈して自然界の濃度にすれば事が済むのだろうか。韓国の魚介類に対する不安の声を風評被害と片付けている。韓国原発事故の場合も「直ちに影響がない」というのだろうか。原子力事故が今も進行中である。東電が事故収束の責任を果たしていない。汚染者負担の原則を謳っても事故発生者が責任を負えないなら、国が前面に出るのも当然である。

政府は原発推進の立場上事故責任を曖昧にした。対策を遅らせた原因は東電だけでない。東電を取り巻く原子力村がバックにある。運命共同体である。原発企業(東芝・日立・三菱重工)やメガバンクや大手ゼネコンや電力事業者等が利益を共有できる。福島事故の原子炉はゼネラル・エレクトリック(GE)から購入した。日立と東芝で造り、東電が運転する。原発の安全性は国が監視していた。GEの原子炉の問題が指摘される。GEの責任を問えない。その壁は日米原子力協定にある。原発依存から脱却するために原子力協定を見直すべきだ。政府の責任で汚染水問題を始め、原発事故対応に取り組むべきだ。事故責任能力のない東電は資産を売却し速やかに破綻処理をする。売却した資産が福島の被災者の賠償費用となろう。福島原発事故の収束に向けて「政府が責任を持つ」と約束をした。五輪誘致のための方便では情けない。事故収束に有言実行を期待したい。地下水問題の深刻さ、増え続ける汚染水に世界中が注視している。事故収束に向けてどのように解決していくのか。まさか海に垂れ流しではあるまい。希釈すれば自然界の濃度になる。採りあえず表面を取り繕うだけでは世界が納得しない。科学者専門家が英知を出し合う中にこそ、汚染水漏れの解決の糸口が見えてくる。

春日直樹記

インターポール※の気候変動、違法材停止への方向 ※インターポール(国際警察組織) N

最後の残りの天然林の保護は、気候変動に取り組むためのグローバルな取り組みに不可欠だ。私たちは、森林劣化・伐採から森を守るための効果的なメカニズムを確立することを広範囲かつ科学的なコンセンサスを求め、また産業の温室効果ガス全体の排出量の両方の削減を達成した場合、気候変動につき回避することも可能と考える。森林の生存バランスを保ち、私たちの生物圏を維持し、大気から二酸化炭素を吸収する地球は「緑の肺」だ。二酸化炭素は森林伐採で戻って、大気中に森林伐採と植林の精算は、全ての世界の空気、道路、鉄道、出荷が組み合わされるよりも、炭素排出量排出が17%多いと推定される。

森林は世界の陸生種の2/3以上の生息地を提供し、生物多様性の重要な貯水池だ。また 癌の治療、他の病気の治療薬は、私たちの森林における種の中で発見の可能性がある。森は16億人以上の人を生きさせている。世界の1/4の人がそこに住んでいるが、貧困以下の生活をおくっている人の90%は食品、医薬品、避難所や燃料用の森林に依存している。

ここ数年の間に、国際的な気候変動交渉は、森林保護政策を実施するため国に報いるための資金メカニズムを確立することに焦点を当てている。REDD+(途上国における森林減少と森林劣化からの排出削減)と呼ばれるメカニズムは持続可能な林業の実践を支持するために、彼らの政策をシフトするために業界と政府のやる気を引き出すため肯定的な金銭的な使用形態を見つけることに焦点を当てている。REDD+の機構は、国連、世界銀行、他のイニシアチブによってサポートされている。資金は、政策改革と能力構築を行う国家戦略を作成するために、途上国を支援し、REDD+の準備段階に焦点を当てている。究極の目的は、持続可能な森林経営に向けた政府の政策と業界の慣行全体のシフトをもたらすことだ。このような税制優遇措置、補助金や炭素クレジットを生成するための機会として -- 正の金銭的インセンティブを提供することは、シフトを促す上で重要な役割を果たす。良い行動に報いるために積極的なインセンティブを使用することが重要であるが、我々は悪い行動を罰する必要がある。堅牢な強制メカニズムによって補完しない限り、たとえ最高の森林管理政策でも無効だ。強力な法執行機関とのカップリングの金融インセンティブは林業実践の長期的変化をもたらすための最良の方法だろう。残念ながら、十分な法執行能力が途上国に備わっていない。林業犯罪への取組み、特に違法伐採は、世界の森林を救うための戦い、最初のステップのいずれかでなければならない。2秒毎に、森林の面積はサッカー場の大きさが消えている。違法伐採がその最悪にある地域で行われている - アマゾン盆地、中央アフリカ、東南アジアなどだ。

違法伐採は弱い森林政策の直接的な指標だ。強固な森林政策が実装されない限り、単に迅速な財務利益の支持でも悪い業界によって損なわれ、強固な保全は出来ない。現状で、世界で取引される全木材は、15-30%が違法な供給源から来ていると推定される。キー森林国に焦点を当てると、木材輸出の50-90%と深刻である。違法伐採への取組みは、したがって、全体の森林消失を防ぐために不可欠だ。過去10年間に法執行機関、NGOsの努力がブラジルのアマゾン、インドネシア、カメルーンで50-75%まで違法伐採率をダウンさせ、劣化しつつある森林1700万haまで保存へ向かう傾向が見られた。違法伐採は政府収入、経済の安定と国民の健康に重大な悪影響を及ぼしていた。違法伐採、それを支える破損は、毎年30億ドル程度の負担が政府にかかる。強力な法執行機関の努力は、この収益の損失を回復することができる。

違法伐採の操作は、開発者がすぐにできる環境のために森の中に入り、外に移動させ、信じられないほど破壊が進む。違法伐採の操作は食糧、医薬品、燃料へのアクセスを拒否する組織犯罪ネットワークが運営し、違法な開墾は水源汚染、地滑り、火災などの自然災害を起こす。協調と国際的な対応は、林業犯罪に関与して組織化され国境を越えた犯罪グループに対抗することが不可欠だ。違法伐採の操作につき、単に国境を越えて移動しないように近隣諸国によってサポートされなければならない。だが多くの木材生産国における法の執行員は、低賃金と少しの訓練、貧しい機器など多くの課題に直面する。違法な木材調達の輸入販売を禁止することにより、違法木材に対する需要に直接的な影響を持つことができる。輸入国の支援が必要だ。そのような法律は、米国内に存在するが、執行及び訴追は稀だ。同様の法律は、オーストラリア、欧州連合(EU)が導入しているが、日本、中国は進んでいない。(インターポール・Davyth スチュワート)

【マレーシア等 2013 年森林破壊進む】

米航空宇宙局 (NASA) 科学者によると、2013 年前半にマレーシア、コンゴ共和国 (DRC)、マダガスカル、ボリビアで森林破壊が急激に増加と評価の報告をした。(資料: Mongabay.com 8 月 16 日)

【豪州、違法伐採材の貿易撲滅のため新基準へ】

6 月オーストラリアでは輸入者、中間取引業者は、建築用材だけでなく家具、パルプ、紙に至るまで組織犯罪を犯すギャングから違法木材の取引禁止へと強化の認証基準を守らなければならなくなる。昨年、オーストラリアでは違法伐採木材の輸入と使用が禁止された。新しい違法伐採禁止法修正案は輸入者等が遵守するため 4 つのステップを踏むことを定めている。(資料: 6/20、Illegal Timber Trade 等)

【コートジボワールも違法伐採停止策へ】

6 月 13 日、EU とコートジボワールが違法伐採撲滅のパートナーシップ構築の交渉を開始。違法伐採は生活を森林に頼る何百万の貧困層に影響を与えるが、関連の森林減少は気候変動に悪影響を及ぼす。今後交渉の自主的 2 国間協定 (VPA) は法的拘束力ある合意を生み出すと。(フェアウッド News)

【世界 2 位熱帯林・アフリカ森林伐採が劇的鈍化】

Oxford 大学と英国科学者は近年、アフリカでも新伐採が急激に減少と。例えば 1990 年から 2000 年間で、コンゴ盆地の森林は 28 万 5 千 ha、毎年一日当りサッカー場と同等のものを失った。2000-2010 年間は約 18 万 ha/日減少と。(資料: Oxford 大学 7/12)

【西パプア警察長官、密輸で逮捕】

6 月インドネシア政府は行動を取るよう要請。西パプア・ラジャアンパット島の違法伐採で警察長官が、大規模の木材盗難に融資と協調不正で密輸業者を逮捕し、続いて逮捕された。(資料: EIA2013/5/30)

【インド輸出業者が違法材デュー・デリジェンスを】

SME タイムスは、欧州の新しい木材法 (EUTR) 及びその他の規則を遵守するため、ハンドクラフト最高機関の「VRIKSH」が違法材停止へデュー・デリジェンス・システムを開始。(6/28 フェアウッド News)

【エクアドル大統領、油田開発停止を撤回と】

8 月 15 日、コレア・エクアドル大統領は、ヤスニ国立公園の油井掘削を認めると。ここは世界に生物多様性を誇りユネスコの生物圏保護区に指定され、8 億バレル強の原油が埋蔵の油田開発を 2007 年、同大統領は「放棄」と表明し、国際社会から 12 年で 36 億ドルの国際信託基金を募ると発表。4 億トンの Co2 放出を停止だったが、6 年間で僅か 1 千万ドルのみの集まりで容認へ。この決定にエクアドル国民が反発のデモ！地球の 4 割を占めるアマゾンが、40 年間で 1/6 が消滅。(jpress.ismedia.jp、フランス通信)

【ブラジルは過去 8 年間で 8 割も森林破壊を減少】

デシエイラ・ブラジル環境相はこの 8 年で 84% 減少させ、熱帯林荒廃を遅くするための国際的目標に近づいていると発表。目標は、2020 年に 3900km² の森林伐採を設定している。公式または暫定データでは、森林伐採は 2012 年 8 月と 2013 年 4 月に 1900 km² と報告。しかし、スリナム、ガイアナ、コロンビア、エクアドルでは森林破壊が急増(資料 Mongabay や <http://phys.org/news/2013-06-amazon> 等)

【コロンビア政府、最大国立公園の大きさ倍増 Plan】

コロンビア政府は 8 月、南部 Chiribiquete 国立公園が 13 千 Km² から 28 千 Km² とアマゾン最大保護地域の一つに拡大と。素晴らしい (Mongabay.com より)

【パナマの先住民族が国連の森林計画を拒否】

6 月 2 日、パナマ先住民は自国で行われる国連の国際森林プログラム (REDD) を終了するよう求めた。パナマの 7 つの先住民団体 COONAPIP による要求は、先住民の権利について国連宣言の条項を問うもので、同条項は天然資源に影響する計画及び投資を拒否の権利があると。(資料: フェアウッド News)

【HS(香港上海)銀行は悪い企業に融資停止を】

HS(香港上海)銀行はタイプ・サラワク州首相の贈収賄や汚職の疑いの濃い企業へ金融サービスする最大の Bank。世界 3 位の銀行、80 カ国で事業し、利益は年 220 億ドルになる。「HS 銀行は森林破壊する企業へ融資停止を」と Forest.Org は訴えている。同社はタンジュン・プテインの BGA 社に資金融資だ！

<会計より>



井下祥子

いつもウータンをご支援いただき、ありがとうございます。
年会費は4000円ですので、よろしく願いいたします。
会費カンパの振込用紙をもって領収に替えさせていただきます。
領収書の必要な方はお手数ですが、振込用紙にご記入ください。

未使用の切手をお送りいただけないでしょうか？

大変厚かましいお願いですが、引き出しに眠っている切手がありましたら、
いただけないでしょうか？

ウータンの活動費のかなりの部分を通信費がしめており、基金をいただいても、家賃や印刷、郵送料等、運営費は自前です。ご寄附いただけると、大変うれしいです！

.....

<会費・カンパ等をいただいた方> (敬称略) (2013.6.9 ~2013.8.31)

アユス関西・服部隆志・・・沢山の未使用切手をありがとうございました！
ご協力いただいた方がたにも感謝いたします。

金澤謙太郎 須波ヒロ子 関目実 (切手をありがとうございます)
本田次男 南俊二 湯川れい子 米沢興治

.....

福島原発の汚染水もれは終息どころかひどくなる一方。しかし(オリンピック招致にさしさわるから?)「その話は後回し」と対策の動きは鈍い。
その政策(政権)を選んだ大勢の人がいる。きちんと情報が流されないことも大きいのでは。放映されても、人の見ない深夜だったりする。

巨大地震特集番組のシュミレーション映像に呆然とした「防災の日」、新聞には原発再稼働申請の記事が・・・大丈夫、ニッポン!?

HUTAN ACTION SCHEDULE

※ 今回、スケジュールはありません！

『ゾウの森とポテトチップス』

横塚 眞己人/写真・文 そうえん社

2012発行 1,365円

世界で3番めに大きな南の島・

ボルネオ島のゾウたちの命があぶない



わたしたちが何気なく食べているポテトチップス、

毎日つかっているシャンプーや洗ざい・・・

これらがゾウたちの命をおびやかしているって、ホント？

——熱帯雨林の森がへっているボルネオ島の真実と、

わたしたちのくらしとのつながりを知る写真えほん。



ウータン・森と生活を考える会

【OFFICE】〒530-0015 大阪市北区中崎西1-6-36

サクラビル新館308

「関西市民連合」気付

Tel.06-6372-1561

<http://www.hutang.jimdo.com>

【一部】300円 【年会費】4000円

【郵便振替】00930-4-3880

◎購読希望の方は郵便振替で申し込み下さるか、又事務所までご連絡下さい。

◎ウータン定例会は、毎月、第2、第4火曜日7:00pmより「関西市民連合」事務所にて行っております。